

令和3年度地域活動サポートセンター活動実績報告（令和4年3月17日時点）

事業名	概要	活動報告		成果	課題	今後の取組み
介護予防運動活動支援事業	市民に対し、介護予防のための運動活動を自主的に地域で行えるサポーターを養成し、地域にて実践することにより、高齢者の介護予防に繋げる	ポールンピック大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>予選会 71チーム、参加者538人</li> <li>本大会 8チーム、参加者78人</li> </ul>	各地域の公民館等で予選会を行ったことにより、参加者が増えた。	シニアクラブ連合会や運動サポーターが活動している福祉会に属していない地域からの参加がない。	福祉会などを通し、年間行事の一つにポールンピック大会を取り入れていただくように働きかけ、より多くの地域で展開していきたい。
		運動サポーター養成講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動サポーター登録 43人</li> <li>養成講座回数 5回 延参加者数 44人</li> <li>フォローアップ研修 8回 延参加者数 133人</li> </ul>	コロナ禍だったが、例年と変わらない程度サポーターを養成できた。また、体力測定専門とデュアルタスクトレーニング専門のサポーターを養成し、活動の幅を広げていくことができた。	今年度は、フォローアップ研修の予定を年度始めに案内したが、十分に周知できていなかったため、参加者が偏っていた。また、日程を曜日で統一したことにより、参加することが難しいという意見も聞かれた。	新たに養成したサポーター（特に、地域に所属していない体力測定、デュアルタスク）が活躍できるように、出前講座などを積極的に行っていききたい。また、サポーターがいない地域にサポーターを養成するように福祉会などを通し、声をかけていきたい。
		地域で実施されている介護予防運動教室の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援地域 16カ所</li> <li>延支援回数 168回</li> <li>延活動参加人数 2478人</li> <li>サポーター延べ支援数 415人</li> </ul>	千鳥東ヘルスステーションが1カ所立ち上がった。コロナ禍においても、サポーターが感染症対策を講じ、できる範囲で活動を行った。	サポーターがいても、コロナの影響で活動が止まっているところがある。小野小・花鶴小学校区など地域サポーターが少ない地域での活動がない。	サポーターがいない地域にサポーターを養成するように声をかけていき、地域展開につなげていきたい。
		出前講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり回数 28回 延べ参加者数 404人</li> <li>その他回数 10回 186人</li> </ul>	まちづくり出前講座に加え、出務依頼などもあり、サポーターの活躍する出前講座がコロナ禍においてもある程度依頼があった。また、まちづくり出前講座のメニュー以外に、シニアクラブとコラボし地域での介護予防運動活動を推進した。	シニアクラブや福祉会など、出前講座を申し込む地域はほとんどが毎年同じ地域である。	いろいろな地域で出前講座ができるように周知していきたい。
介護予防音楽活動支援事業	地域で音楽を通した介護予防活動を行う人材育成を行い、地域の公民館等で介護予防活動を実施し、高齢者の健康づくりや介護予防を推進する	音楽サポーター養成講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽サポーター 33人</li> <li>養成講座回数 13回 延べ参加者数 95人</li> <li>フォローアップ研修 7回 延べ参加者数 85人</li> </ul>	養成講座では5名の受講生が修了した。全員が地域で活動することを希望しており、新年度スタート予定の2箇所にはサポーターとして活動して貰う予定である。フォローアップ講座は自主勉強会2年目になる。鍵盤ハーモニカの練習の他にレクリエーション講座、認知症サポーター講座等活動に直接役立っているという声も聞かれる。	地域住民の音楽サポーターによる介護予防音楽活動の開催を目指しているが、地域住民のサポーターがまだいない所もあるので（6箇所）、今後養成講座の受講生募集の時には心掛けて声かけしたい。	どの地域もいずれは指導サポーターに頼らずに鍵盤ハーモニカの自主練習ができるようになるのが目標なので、フォローアップ講座のより一層の充実を図りたい。
		地域で実施されている介護予防音楽教室の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援地域 16カ所</li> <li>延べ支援回数 117回</li> <li>延べ活動参加人数 1105人</li> <li>サポーター延べ支援数 183人</li> </ul>	今年度も緊急事態宣言中は活動は停止であったが、蔓延防止措置の間は16地域中、開催7箇所、中止9箇所であった。開催をした地域では、感染対策に十分に気をつけた上で集まって活動し、フレイル予防につなげられたと思う。	音楽活動サポーターとして活動が7年目を迎える方も多く、長年にわたるご支援を有難く思う。ただサポーターの方も次第に高齢化してゆくの、若い世代のサポーターを増やしていく必要があると考える。	今後も感染対策のために活動出来ない期間があると予想されるため、フレイル予防に音楽活動を活かすには各自が家で一人でも練習出来るような教材や仕組みづくりが必要だと思う。
		生き生き音楽交流会	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加地域 14カ所（予定）</li> <li>参加人数 160人</li> </ul> ※3月以降順次録画予定	撮影、DVDの編集はデジタルサポーター2名の協力によって行われている。年に一度の演奏の撮影は参加者の練習のモチベーションになっていると思われる。	今後も一堂に会して交流することは難しいので、DVD録画を続けることになるだろうが、録画の機材がサポーター頼みなのが気掛かりである。	コロナ禍が落ち着き、地域の行事が開催されるようになったら、実際に敬老会、夏祭りなどで演奏して地域の皆様と楽しんでいる姿などを撮影した交流DVD録画にしたい。

事業名	概要	活動報告		成果	課題	今後の取組み
介護予防サポーター活動支援事業	高齢者の社会貢献を促すことで、生きがいづくりに寄与するとともに、地域や高齢者施設等の生活支援や介護予防も併せて進める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポーター登録者数 201人</li> <li>・地域・施設等登録数 42カ所</li> <li>・延べ支援回数 599回</li> <li>・サポーター延支援数 949人</li> <li>・延参加者数 5981人</li> </ul>		コロナ禍において、サポーター活動も自粛・縮小を余儀なくされる状況だったが、前年度とほぼ同数の201人の方がサポーター登録をしており、介護予防サポーター活動に対する意欲を感じることができた。	コロナ禍で地域活動が自粛・縮小され、介護予防サポーター活動の活躍の場の確保が難しい。また、施設等においても、感染症対策のため介護予防サポーターの受入が難しい状況である。	介護予防サポーターの受入れを希望する施設に、受入れ体制を確認するアンケートを実施。コロナの状況を見て、受入れを希望する施設と介護予防サポーターのマッチング会を行う予定。
地域活動サポートセンター運営事業	地域のつどいの場や高齢者施設等で行われる健康づくり等の活動を支援するボランティアを養成し、高齢者等の健康の増進及び社会参加の促進を図る	ゆいさば教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12教室</li> <li>利用者数 825人</li> </ul>	ビギナー教室の受講がきっかけとなり、サポーター登録をするという流れが定着してきた。	新型コロナウイルス感染症の影響で講座が急遽休みになることもあり、受講者への連絡に手間取った。	6月から令和4年度のビギナー教室が開講する。新講座も開講し、新しい人材の発掘を図る。
		ゆい出前講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回数 5回</li> <li>延参加者数 106人</li> </ul>	新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度には出前講座の依頼が全くなかったが、少しずつ依頼が増えてきた。	介護予防サポーターとして活躍する場が少なく、意欲向上が難しい。	地域や施設等の多様なニーズに応えるため、令和4年度より講座のメニューをリニューアルする予定。
外出促進事業	高齢者の社会参加を促し、閉じこもりの予防と健康づくりを推進する	高齢者外出促進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期間：令和3年7月～令和4年2月10日</li> <li>・シール配布対象イベント数</li> <li>地域：177</li> <li>行政：42</li> <li>・応募枚数 976枚</li> <li>・当選人数 100人</li> </ul>	コロナ禍でイベントが中止・変更になることも多かったが、事業の実施方法を一部変更し、柔軟に対応することができた。令和3年度の応募締切後以降に配布したおでかけシールは令和4年度に応募に利用でき、通年シールの配布が可能となった。	イベント登録をする団体が多い地域と少ない地域があり、地域間でシールをもらえるイベント数に差があった。	行政区長、福祉会、シニアクラブ等、地域の団体に事業への参加を呼びかけ、地域間のイベント数の差を縮める。
		こがんよか健康ポイントキャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期間：令和3年7月～令和4年1月</li> <li>・応募人数 46人</li> <li>(当選人数27人)</li> </ul>	キャンペーンを通してふくおか健康ポイントアプリを知ってもらい、健康づくりのきっかけとなった。	キャンペーン初年度ということもあり、認知度が低く応募人数が少なかった。	行政区長、福祉会、シニアクラブ等にキャンペーンの周知を行う。応募条件となる獲得ポイントを見直し、参加意欲を高める。
		こまめ隊就任記念カードラリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期間：令和3年11月～令和4年3月</li> <li>・賞品受取 22人</li> </ul>	介護予防キャラクター「こまめ隊」について周知し、外出と介護予防で必要なことを知ってもらうきっかけとなった。	離れている場所にはカードをもらいに行く人が少なかった。	「こまめ隊」カードを活用し、さらに介護予防を推進する。
生活支援体制整備事業	地域の支え合いネットワークの構築を行い、住み慣れた地域で高齢者が安心して暮らせる体制を整備する	地域支え合いネットワーク全体会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1層：令和3年度活動報告会</li> <li>2層：テーマ：地域と専門職をつなぐ</li> <li>8小学校区にて開催</li> <li>参加総数 151人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1層：SCの年間の総括会を実施予定（3/28）</li> <li>2層：8小学校区で地域リーダーと専門職の地域担当の顔合わせを行い、そのことで地域と専門職のマッチングを行なえた。</li> <li>・校区課題を明確にして、専門職と共に意見交換を行う。</li> </ul>	コロナの影響で、1層・2層の会を中止にしなかったものの、人数制限を行っての実施となり、多くの人に参加を呼び掛けることができなかった。	令和4年度も、地域支え合いネットワーク全体会議を実施する。この会の目的は、その参加者を通して、介護予防・生活支援の基盤が地域にできることであり、継続が最も重要である。
		ネットワーク通信	<ul style="list-style-type: none"> <li>12号：コロナ渦のつどいの場</li> <li>13号：出前講座一覧2022</li> <li>各5000部</li> </ul>	コロナ渦において、つどいの場が中止になっていく中、つどいの場の重要性や再開支援になる情報提供を行った。	情報誌の意味においては、いかに多くの高齢者の手に届くかが重要であり、つどいの場が閉まる中、配布の場等が限られていったのは課題であった。	つどいの場の再開支援や支援者の見える化などを、通信を通し4月より一気に進めていく。次年度は14号、15号を発行予定。
		介護予防・生活支援課題別会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題別会議（買い物支援）</li> <li>・社会資源の開発</li> <li>・社会資源の見える化</li> </ul>	買い物支援に関して、古賀市の中でSC業務として、関係機関や地域リーダーを巻き込み、協議の場を持ち、新たな事業の模索を行った。そのことで、古賀市の買い物支援に関する現状把握ができた。	古賀市の高齢者に合った介護予防活動や生活支援をいかに作りこんでいくか、関係者が集まり協議し、具体化していくことが体制整備において重要であり、課題別会議に持ち込む工夫が必要。	地域課題を、課題別会議に持ち込み、地域も含む当事者で協議を重ねる場のコーディネートを行っていく。
		SC/CSW連携タイム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間45回</li> <li>SC/CSW学習、情報共有・事業の構築</li> </ul>	本年度よりSC・CSWの業務が中学校区に1名配置された。1層SCと2層SCがつねに情報共有を行い、一体となって業務が行うことができた。	本年度は、新体制になったことから、学習や地域分析に関する協議が多く、社会資源の創出の取組が少なかった。	古賀市の高齢者の地域課題を進めていくための取組を創出していくためにも次年度も連携を図っていきたい。